

教育長室からのお知らせ No. 83(令和4年6月)



教育長 田中 康史

衣替えを終え、夏の装いを目にするようになりました。梅雨入りのこの時期は、蒸し暑さのために体調を崩しやすいので、十分に留意して過ごしていきましょう。

5月には多くの学校で運動会・体育祭が開催され、子どもたちが競技や係活動に生き生きと取り組む姿が見られました。大きな行事を終えた6月は、比較的落ち着いて学習に取り組める時期ですので、子どもたちの学習環境を今一度整えてまいります。

さて、現行の学習指導要領が全面実施となり、小学校では3年目、中学校では2年目を迎えました。学習指導要領の充実期に向けた取組として、教育課程と授業改善の視点から本市の状況を見てみます。

まず、教育課程についてです。各園・学校では教科横断的な視点を持ち、ICTとアナログの資源をベストミックスさせた編成に努めています。特徴的な取組として、東国分爽風学園（東国分中学校、曾谷小学校、稲越小学校の3校による小中一貫型小学校・中学校の通称名）では、今年度から新しい領域「ふるさと探究科」がスタートしました。「ふるさと探究科」は、地域の特色ある環境を学習素材とし、SDGsと関連させながら探究的な活動を行うものです。現在、3校では、単元の具体的な内容の充実を図るため、3校の担当者が参加する専門部会を行ったり、各校で研修等を実施し検討を重ねたりしながら実践を始めており、地域に根差した課題（環境や防災）や、地域の特色・魅力をテーマとして扱った学習活動が展開される予定です。

次に、授業改善についてです。ICT機器導入の目的の一つは、授業改善です。子どもたちに必要な資質・能力を育成するためには、単元レベルでの主体的・対話的で深い学び、併せて、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めることが必要です。学びを深めるためにもICT機器を利活用してまいります。企業やゲストティーチャー、ICT支援員の力を借りて実践された取組を紹介します。大野小学校では、総合的な学習の時間を使い、子どもたちのプログラミング的思考力（論理的思考力）育成と情報活用能力向上を目指した取組が行われています。初めにAI（人工知能）の仕組みやプログラミングの基礎を学び、ミニアプリ（例えば、カメラに顔を映すと自己紹介が表示される「自己紹介」のアプリ。）を作りました。次にAIを使ってより良い生活を提供できないか、他の学年や学級にアンケートを行い、日常生活での問題点を明らかにしました。そして、その問題を解決するために、AIとプログラミングを用いて人の役に立つアプリ（例えば、「漢字学習アプリ」。漢字をカメラに映しメニューを選択すると、その漢字の書き順のアニメーションや熟語、読み方、間違いやすいポイントが表示される。）を作りました。学習後は、休み時間等にプログラミングソフトのスクラッチで自主的にプログラミングを活用する児童が増えています。また、パソコン委員会でプログラミングを学校全体に広めていきたいという意見が出るなど、児童同士でプログラミングを教え合う活動も始まっています。ICT機器をまずはとにかく使ってみる、すると、子どもが自身の関心に基づいて主体的に使うようになる、そして、子どもが学びを深めるために使うようになり、「教師が教える授業」から「子どもが学び取る授業」へと改善が図られるのだと思います。

先日、国の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」が変更され、2歳以上の小学校就学前の幼児にはマスク着用を一律には求めないことや、夏を迎えるにあたり、学校生活においてマスク着用が不要な場面の例と留意事項が示されました。コロナ対策を巡りつつも、子どもたちが集い、交流し、コミュニケーションを図る場の提供は、学校の役割として重要です。これからの学校教育においては、「ウィズコロナ」の考え方のもと、思い出に残る行事の実施を目指してまいります。